

見性院住職からの一言（その十三 今年最後に言いたいこと）

平成30年は平成最後に相応しい私にとってとても充実した有意義かつ達成感のある一年となりました。思うようなことの8割以上は出来たと自負しております。いろいろあって本当に面白くて楽しい一年でした。

宗務庁、宗務所、近隣寺院そして旧（檀）信徒の不満分子の方々にも一定のご理解をいただけて嬉しく思っております。世の住職方の地位向上と権限強化にもお役に立てたと思います。お寺社会もこれから二極化、淘汰の嵐が吹き荒れてくると思います。そんな中で本当に真面目に働き、一定の実力を備えていれば思わぬ大チャンスが訪れてくると存じます。兎にも角にもしがらみを絶って徹底的に突き進むことが重要です。（猪突猛進）

今年も全国のお寺を旅して巡りました。昨日と今日は大阪でした。大阪寺院さんも想像以上でした。見性院流は何も間違っていないと確信しました。

旧（檀）信徒に気に入られようなんてしないことです。わが寺に特殊理論武隊を編成して要塞を築き、優秀な人材を集めていくことが大切です。そして方針に賛同できる信者、ファンを集客していくことが得策です。

成功のキーワードは「いい人としかお付き合いはしない」です。義理と人情を絶とう。お寺を変えよう。お坊さんを選ぼう。信徒を選ぼうということです。私にとってすでに過去の人のことは早く忘れようと努力しています。おかげさまで私の所には日夜、人が殺到しています。人に困ることはほとんどありません。

是非はともかく私個人の考え方は少なくとも50歳を過ぎて喧嘩別れをしたものが寄りを戻す意味はないと思います。また意に添わない人とは関わらないことをお勧めします。私も人並み以上にありとあらゆる人達と袂（たもと）を分かってきましたが、これは自分の中では最も成功した体験でした。私はかつての同級生や修行仲間、同僚のそのほとんどとお付き合いはしておりません。本当に心が通じ肝胆相照らす人だけに厳選しています。そして私の主催するグループの人達と交流し、常時、情報・意見交換をしています。これが非常に有意義でいつも勉強や仕事の話ばかりで楽しくてたまりません。また私の教化方針に賛同し信者的支援者になっていただいた方を重視しています。そして過去を思い切って捨てたために今は優秀な人材に恵まれて自分の思うような人生を得ることが出来ました。「これまで生きてきていまが一番幸せです。」の毎日です。いつお迎えが来ても悔いはないという覚悟でもって楽天的に生きられるように

なりました。それはおそらく常に新しい事に挑戦してどんな困難にも勇気をもって立ち向かって生きていること。そして仏教を基軸にした正しい判断に照らしていること。仏教を正しく生きているんだという自信からくるものだと思います。

特に信徒の言いなりにさせようとしている輩たちとは無視をするのが最も有効です。信徒の思うような住職になろうなんて間違っても思ってははいけません。住職たる者は僧侶は自らの思想信条を旗幟鮮明にして布教教化をしていく伝道者です。人天の導師です。絶対に信徒に世の中に時代におもねることがあってはいけません。達磨大師の世間に背を向けること面壁（坐禅）九年の気概です。私は最近身内にも冷徹に突き放しています。本人の覚醒のために。

ましてや残りの人生があとわずかの人達と無理をしてまで迎合することはナンセンスです。よき成仏をとって手を合わせておけばよいのです。あつという間に人は入れ替わってゆくものです。そして衰えてゆきます。安心して堂々と我が道を生きていくことが大事です。時に火に油を注いでくれ、さらなる発展に寄与してくれている場合も意外とあるものです。やることなく人生に目的も希望も見失って、常に人にちょっかいを出すことを生きがいとしている人達とは一線を画していくことです。なぜ人は自分の心配、自分の家族や仕事、生活、人生に問題が山積みしていながら内に目を向けないのでしょうか。家の内外がゴミの山と化していて甚だ近所迷惑の人も私の批判だけは繰り返しています。不思議です。ただし、私はおかげさまでこうした嫌がらせには多分に慣れてきました。次第に楽しめるようにもなれました。これも皆様のおかげです。

最後に今年も最高の一年だったことを皆々様に深く感謝します。そして来年は今年以上の成果を出すことをお誓い申し上げます。